

音楽は共通言語

「音楽療法」という言葉をTVや新聞などで見かけることは多々あるだろう。音楽のもつ力がここ最近クローズアップされている。「音楽のちから」という題名の番組も最近放送されたばかりだ。プロの演奏者でなくても、音楽の不思議な力を引き出すことができるようだ。

慶應MJQ(Medical Jazz Quartets)は慶應義塾大学医学部ジャズ研究会である。その名の通り、慶應医学部の生徒達によって多くは構成されている。「聞いてくれる人がいるのはうれしい。」と語るのはMJQ代表でギター演奏者の田原海さん(医学部4年)。フェスティバルへの参加や、病院でのボランティア演奏などをメインに活動している。活動内容を聞いていると、音楽のもつ大きな力を感じた経験があるようだ。

それは2013年3月、MJQが八王子の病院の精神科に入院する子供たちに対して演奏した際の話。演奏相手の30人程の患者の子供たちは、じっと座ってられない、奇声をあげてしまう、という症状をもっていた。10歳前後の子供たちに対して、MJQのメンバーは学生らしく一生懸命、誠実に演奏をした。「聞いてくれる人がいるのはうれしい。」という気持ちを部員みながもち、その熱意が演奏に乗せられた。その気持ちが伝わったのだろうか、様々な症状をもつ子供たちがみな目を輝かせ、じっと食い入るように演奏に聞き入ったという。それはMJQのメンバーが圧倒される程であったらしい。演奏終了後、病院の先生や看護師達からも驚きの言葉と感謝の気持ちを伝えられたそうだ。「音楽をやっていて良かった。今後も続けていきたい。」こう感じたと田原さんは言う。

「音楽は共通言語」と考えるのはヴォーカルを担当する近藤真理子さん(医学部4年)。音楽とは理屈抜きに直接心に届くもの、その力は性別、年齢、国籍など関係なく万人の心に響き影響を与える力をもつ。それが今日の音楽療法という形につながっているのだろう。音楽のもつ不思議な力、あなたも感じたことがあるのでしょうか？